



2017 旅のアルバム

旅を通して成長する子どもたちの姿を報告します



「平和祈念公園」では、沖縄戦などの戦没者の名前を刻んだ「平和の礎（いしじ）」に献花を行いました。世界の恒久平和を願い、礎には、国籍や、軍人・民間人の区別なく人々の名が刻まれています



人々が戦火を逃れて身を隠したガマと呼ばれる自然洞窟で。太平洋戦争の悲劇を学び黙祷を捧げました

琉球王国の栄華を伝える首里城の「守礼門」にて



平和の尊さを 心に刻む旅

昭和20年、太平洋戦争における地上戦の戦場となった沖縄。そこで激しい戦禍に巻き込まれた沖縄は、戦争がもたらす悲劇と苦しみを今に伝え、平和の大切さを訴え続けています。「平和祈念公園」「ひめゆりの塔」などを訪れた26人の小学生6年生は、沖縄の美しい景色の中で、そうした歴史を学び、平和の尊さを深く心に刻みました。

また、旅は、子どもたちのさまざまな力を引き出していきましました。多くの命が失われたチビチリガマ（戦争遺構の洞窟）では、語り部の言葉に耳を傾け、「誰が」「何のために」と質問しメモを取りました。シムクガマに入った際には、「滑りやすいよ」「天井が低いから気をつけて」と声を掛け合いました。友達の手元をライトで照らす人もありました。研修後半になると、準備が遅れた友達を手伝ったり、班員同士で注意を促したり。自然に助け合う力を身につけ、視野が広げながら成長していく姿がありました。



「美ら海水族館」の大水槽。海の豊かさを実感します



残波ビーチでは、夏空の下、海遊びの楽しさを満喫



読谷村で、地元の子どもたち、岐阜県白川村の子どもたちと交流。歌や踊りを交えて故郷を伝え合いました



沖縄までいの旅

7月21日から24日に行われた「沖縄までいの旅」。小学生6年生が戦争と平和を学び、沖縄の文化・自然の美しさ人の温かさに触れた、かけがえのない4日間でした。